

1995.11.24 朝日新聞

「在日」参加 幅広く議論

縁むすび世界大会

国境を超えて人間同士が信頼を築く道を探るフォーラム「第一回神在月縁むすび世界大会」が二十三日、松江市西川津町のくにびきメッセで、約五百人が参加して開かれた。シンポジウムでは、日韓の友好問題、環日本海交流など幅広い議論が交わされた。

世界八百万委員会（千家尊祐委員長）が「出会いと

議論で信頼関係を築き、二十一世紀の新しい情報文化事業を創出しよう」と開いた。シンポジウムでは、在日大韓民国民団県地方本部の朴熙澤団長、小松昭夫・小松電機産業社長ら五人がパネリストを務めた。朴団長は「植民地時代、日本は韓国によいこともした」との江藤隆美・前総務庁長官の発言を踏まえて、「定住韓国人にはいまだに地方参政権がない。サハリンの残留朝鮮人問題など日本が解決すべき戦後処理の問題はたくさん残っている」と話した。